

## 創立 100 周年記念事業 の準備状況

Preparations for the Centennial of  
IEICE in 2017



総務理事 小林岳彦

本会は来る平成 29 年（2017 年）5 月 1 日に創立 100 周年を迎える。大正 6 年（1917 年）の電信電話学会創立当初は 800 余名の会員規模だったものが、その後の技術と関連分野の発展に伴う 3 回の名称変更（→電気通信学会→電子通信学会→電子情報通信学会）を経て、約 3 万名の会員を擁する国際学会に成長した。この 100 年間に先輩が築いてこられた学会活動と技術の蓄積を振り返るとともに、次の 100 年へ向けた更なる発展を期する機会として、創立 100 周年記念事業が計画されている。その準備状況は、会誌の「本会だより」に断片的に記載されているが、多くの会員は必ずしも全貌を把握されていないと思う。たまたま、創立 100 周年記念事業実行委員会や同記念事業協賛委員会の幹事を務めているので、その状況をお知らせしたい。

平成 24 年に設置された創立 100 周年記念事業準備会（小生は当時の会計理事として参加）では、事業の骨格と予算規模が議論され、100 年史の出版など過去を総括し今後を展望する様々な企画を実施すること、本会のサービス向上に向けた情報基盤を構築すること、75 周年記念事業と比較して募金額を大幅に縮小すること、記念行事には皇族をお招きしないことなどが合意された。その後、準備会が上記の実行委員会に移行し、その下に記念行事ワーキンググループ（以下、WG）、財務 WG、企画 WG、100 年史刊行委員会、マイルストーン WG 及びマイルストーン選定委員会が設けられた。更に本年 6 月には同事業協賛委員会が発足した。

事業の内容は次の五つにまとめられる。第 1 は、新たな技術・産業分野の創出とサービス充実に向けた情報流通及び会員サービスシステムの構築である。弥縫的に対処してきたシステムを刷新し、魅力ある会員サービスを提供できるよう、検討を進めてゆく。第 2 はマイルストーンの選定・顕彰である。過去 100 年間に本会の研究領域に関連して創出され、社会や生活、産業、科学技術の発展に大きな影響を与えた研究開発の偉業を、「電子情報通信学会マイルストーン」として顕彰する。本事業は、電子情報通信研究の歴史と意義を振り返るとともに、次の 100 年を背負う次代の研究者や技術者にその創出過程を伝え、革新的技術及び破壊的イノベーションを創出するための糧とするものである。既に公募が始まっている（会誌や本会 Web ページ参照）。第 3 が本会 100 年史の出版である。100 年史の企画・編集は若手・中堅会員を中心とし、歴史を振り返るだけでなく、若い感性で未来技術や社会の姿への展望を含めるように進めている。また本会誌においても数多くの記念特集を組み、各種事業を総括した記念号を出版する。第 4 は各ソサイエティ、グループや支部における企画であって、ソサイエティごとの懸賞論文など、多彩な記念事業が計画されている。ロゴマークやキャッチフレーズの公募・選定は既に完了している。第 5 は記念式典である。来年のソサイエティ大会期間中の 9 月 15 日に特別講演会などを含む記念式典を挙げる。

これらの事業の原資は、平成 25 年の一般社団法人移行時に取り置いた創立 100 周年記念事業積立資産とするが、それだけでなく法人及び個人からの協賛をお願いすることが決まっている。75 周年の際には 3 億円の寄付金が集まったが、バブル経済の当時と現在では事情が異なる。募金目標額を 5,000 万円に圧縮し、更に寄付金だけでなく、記念事業ひいては学会活動と運営の方向性についても広く御意見を頂けるよう、協賛をお願いすることとした。関連業界の法人と本会会員の皆様に御援助御協力をお願いする次第である。